

第10次基本計画策定に係る市民意識調査 結果の概要

1. はじめに

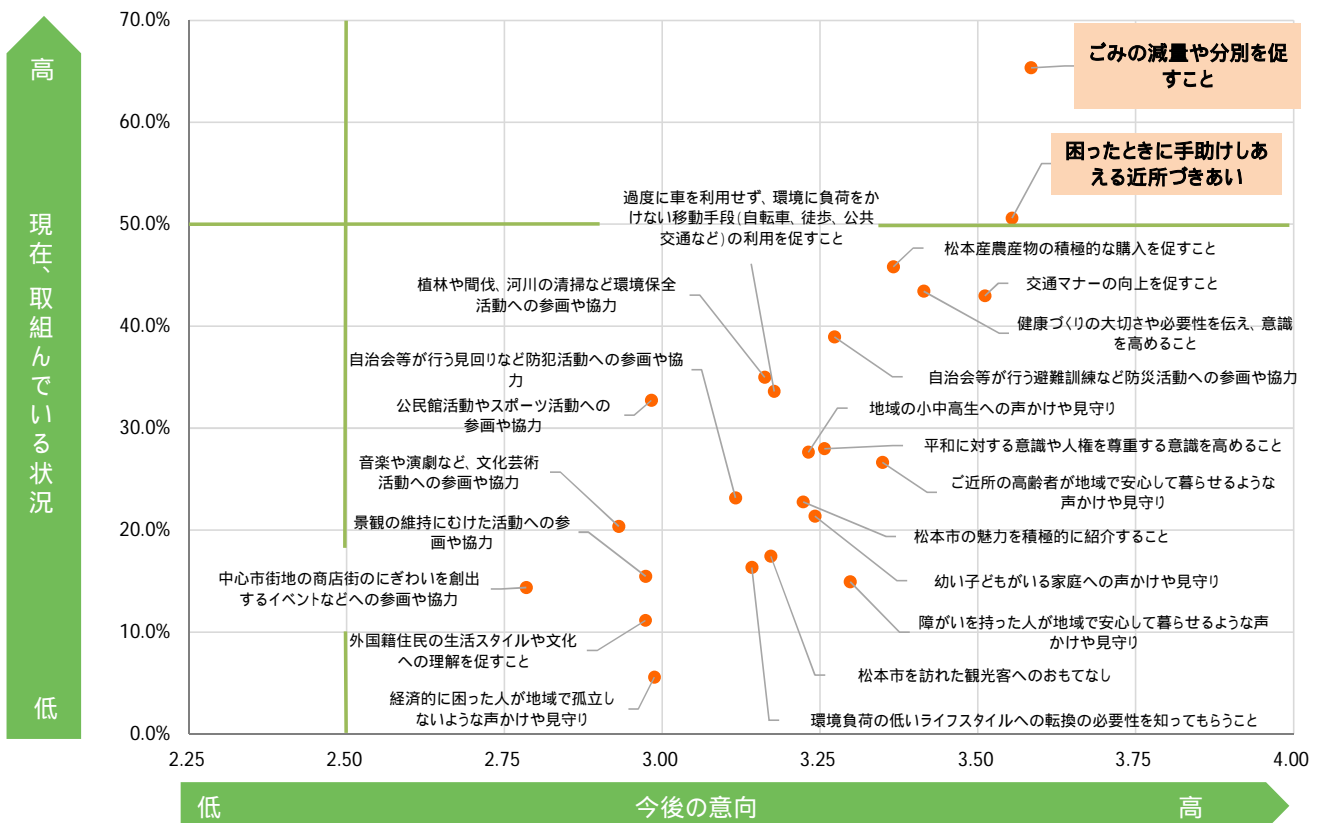
基本構想 2020 の後期計画となる第 10 次基本計画（平成 28～32 年度）策定のための基礎調査として実施した「市民意識調査」の結果について、概要をまとめたものである。

2. 市民意識調査結果

市民の関わり方の状況と意向

政策ごとに「市民の関わり方」を整理し、行政が担ってきた部分のうち「市民が担える範囲」を明らかにすることを目的に調査を実施。それぞれの施策について、「現在取り組んでいるか」「これからも取り組み続けたいか、もしくは、今後取り組みたいか」について質問を設けた。

現在、取り組んでいる人の割合と今後の意向



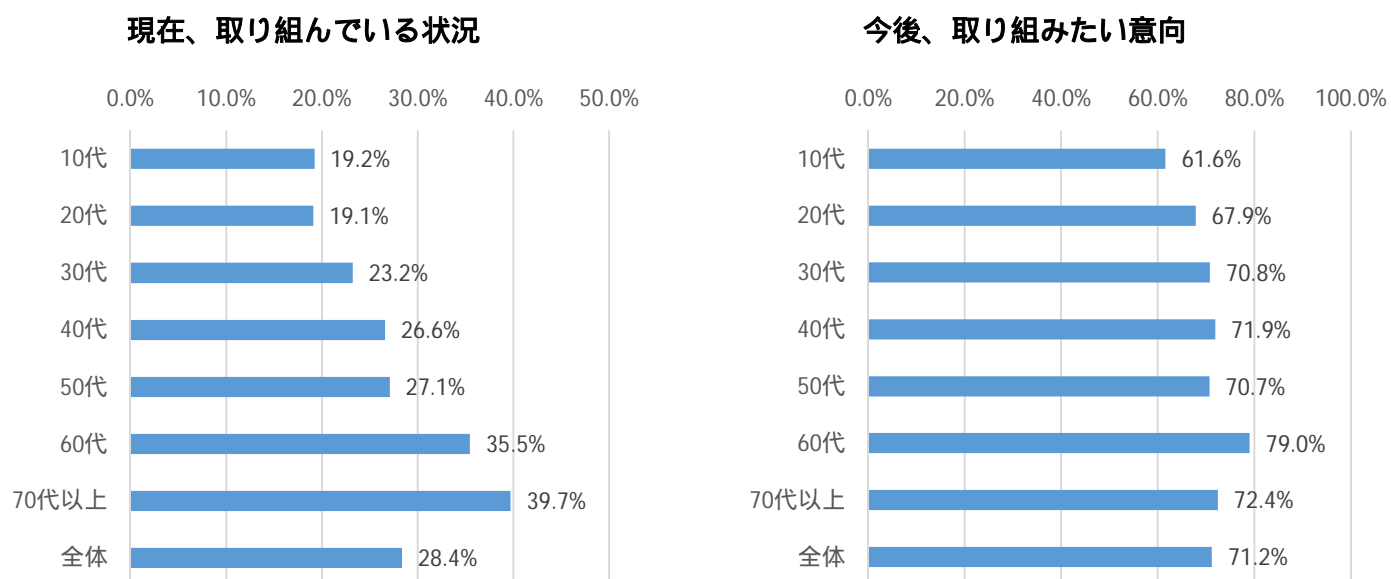
調査結果概要

- 現状の取り組み状況については、「困ったときに手助けしあえる近所づきあい」「ごみの減量や分別を促すこと」以外は、**現在取り組んでいる人が50%以下であり、少ない状況であった。**
- 今後の取り組み意向については、平均点を算出したところ、**すべての項目が中央値2.5点以上であり、「これからやってみよう」と考える人は多い状況にあった。**

取り組みたい意向はあるが、実際に取り組んでいる人は少ない状況である。実際の取り組みにつながるような働きかけ、きっかけづくりが特に必要である。

【参考】「市民の関わり方の状況と意向」の年代別の傾向

下図は、現在、取り組んでいる状況、今後取り組みたい意向について、年代別に傾向をまとめたものである。現在取り組んでいる状況としては、60才以上の高齢者世代で取り組んでいる人が多く、若年世代で少ない傾向にある。今後、取り組みたい意向は、どの世代も高くなっている。



上記結果は、年代別の傾向を示したものであり、統計的推計を行うことはできない数値である。

(2) 重視する分野

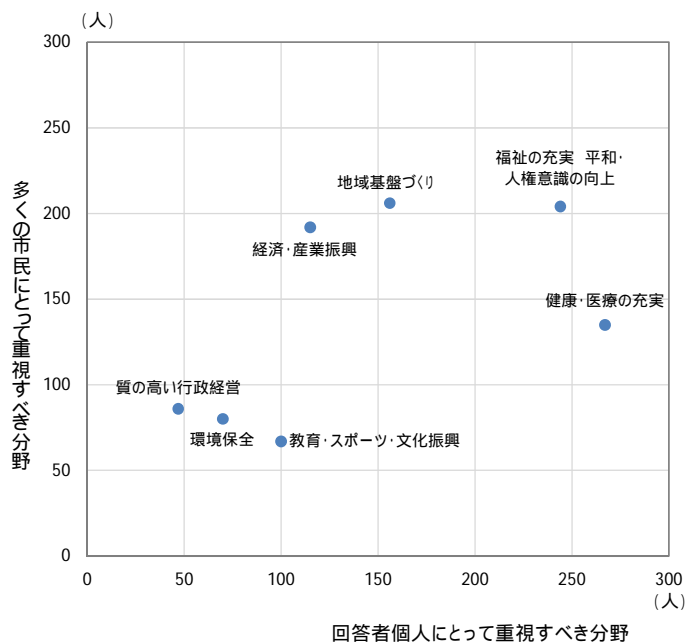
今後重視すべき政策については、「回答者にとって暮らしやすい松本市にするため行政に力を入れてほしい分野」「多くの市民にとって暮らしやすい松本市にするため行政に入れてほしい分野」にわけて質問した。

個人に関わる「健康や医療」などの政策分野は、「回答者個人」として重視する傾向にあった。一方、「地域基盤づくり」など、面的な政策は「市全体」として重視する傾向があった。

この2つの設問における回答の一致率は、低い結果となった。重視すべき分野が一致しない背景には、個人に関わりが深い政策か、面的な政策か、という政策の性質が影響しており、個人か、市全体かで何を重視すべきという設問に対して、想起された政策が異なるといえる。

市民が最も優先順位が高い政策分野と考えているものは、個人、市全体ともに重視すべきという人が多い分野であるといえる。本調査では「福祉の充実、平和・人権意識の向上（高齢者福祉や子育て支援等）」という結果となった。

回答者個人にとって重視すべき分野と多くの市民にとって重視すべき分野の回答者数



年代別に見る「個人が重視すべき分野」

年代別に見ると、10代は「教育・スポーツ・文化振興」、20代～50代は、「福祉の充実 平和・人権意識の向上（高齢者福祉や子育て支援等）」、50代～70代以上は「健康・医療の充実」となっている。世代ごとに、自分との関わりが深い分野、気がかりな分野を重視する傾向にある。

年代別に見る回答者にとって暮らしやすい松本市にするため市役所に力を入れてほしい分野

	健康・医療の充実	福祉の充実、平和・人権意識の向上	地域基盤づくり	環境保全	経済・産業振興	教育・スポーツ・文化振興	質の高い行政経営	回答者数
10代	18.4%	5.0%	22.0%	8.5%	12.1%	32.6%	1.4%	141
20代	15.0%	22.5%	16.3%	13.8%	17.5%	10.0%	5.0%	80
30代	23.0%	31.1%	14.8%	4.9%	10.7%	11.5%	4.1%	122
40代	22.1%	26.5%	16.2%	5.1%	11.8%	14.0%	4.4%	136
50代	25.2%	25.2%	14.5%	6.3%	17.6%	3.8%	7.5%	159
60代	36.7%	29.6%	13.8%	6.6%	6.6%	1.5%	5.1%	196
70代以上	36.7%	28.5%	13.9%	6.3%	8.2%	1.3%	5.1%	158
合計	26.8%	24.4%	15.7%	7.0%	11.5%	9.9%	4.7%	992

色が付いている部分は、最も回答が多い箇所である

年代別に見る「市全体を考え重視すべき分野」

年代別に見ると、10代、20代、50代は「福祉の充実 平和・人権意識の向上（高齢者福祉や子育て支援等）」、20代、30代は「地域基盤づくり」、40代、60代は「経済・産業振興」であり、世代ごとにばらつきがみられる。

年代別に見る多くの市民にとって暮らしやすい松本市にするため市役所に力を入れてほしい分野

	健康・医療の充実	福祉の充実、平和・人権意識の向上	地域基盤づくり	環境保全	経済・産業振興	教育・スポーツ・文化振興	質の高い行政経営	回答者数
10代	16.4%	30.7%	20.0%	10.7%	8.6%	11.4%	2.1%	140
20代	17.9%	25.6%	25.6%	6.4%	14.1%	5.1%	5.1%	78
30代	17.2%	23.8%	27.0%	5.7%	14.8%	5.7%	5.7%	122
40代	15.0%	12.8%	24.8%	9.0%	27.8%	7.5%	3.0%	133
50代	12.7%	25.9%	15.2%	7.0%	22.2%	8.2%	8.9%	158
60代	12.0%	16.8%	19.6%	6.5%	28.3%	6.0%	10.9%	184
70代以上	9.5%	14.9%	21.6%	10.8%	16.9%	4.1%	22.3%	148
合計	13.9%	21.1%	21.4%	8.1%	19.7%	7.0%	8.8%	963

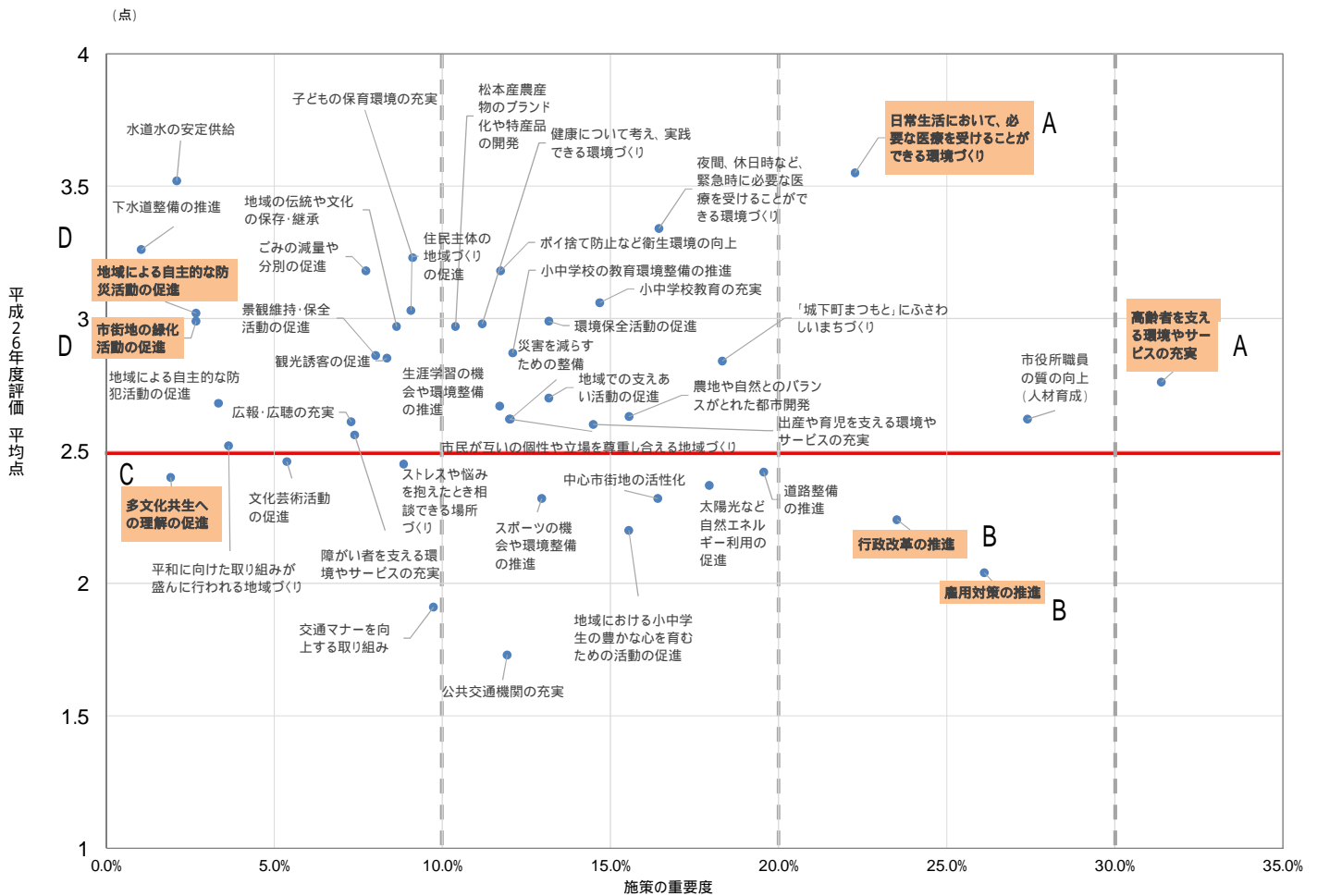
色が付いている部分は、最も回答が多い箇所である

(3) 市民満足度調査による現状評価結果と重要度、市民の関わり方の分析

市民満足度調査と重要度のクロス分析

下図は、施策の現状評価（平成26年度の市民満足度調査結果）と重要度を組み合わせたものである。

施策の重要度と現状評価



現状評価と対応が取れていない項目は掲載していない

重要度は、政策分野ごとに重視すべき施策を単一回答で聞いている。政策分野ごとに選択肢数に違いがあるため、単純に比較することはできない。

上記結果の見方

A：満足度が2.5点以上かつ重要度が高い【該当施策：高齢者サービス、日常医療の環境など】

一定の評価を得ており、重視すべきという人が多い施策である。現状、松本市の強みといえる分野である。環境づくりは現状を保持し、ソフト面の取組みに関しては維持していくことが必要。

B：満足度が2.5点未満で重要度が高い【該当施策：雇用対策、行政改革の推進など】

何らかの課題に対応すべきと考える人が多い施策である。この施策は、まずは何が課題であるのか、市民が感じている課題が実態に即したことなのか、緊急性が高いことであるのか等を検証する必要がある。

C：満足度が2.5点未満で重要度が低い【該当施策：多文化共生など】

重要度も現状評価も低い項目は、市民が必要を感じていない、または回答保留の割合が高いことから、当該施策に対する関心が薄い可能性がある。シビルミニマムと照らし合わせ、何をすべきかを見極めながら取り組む必要があるといえる。

D：満足度が2.5点以上で重要度が低い【該当施策：地域防災、市街地の緑化活動など】

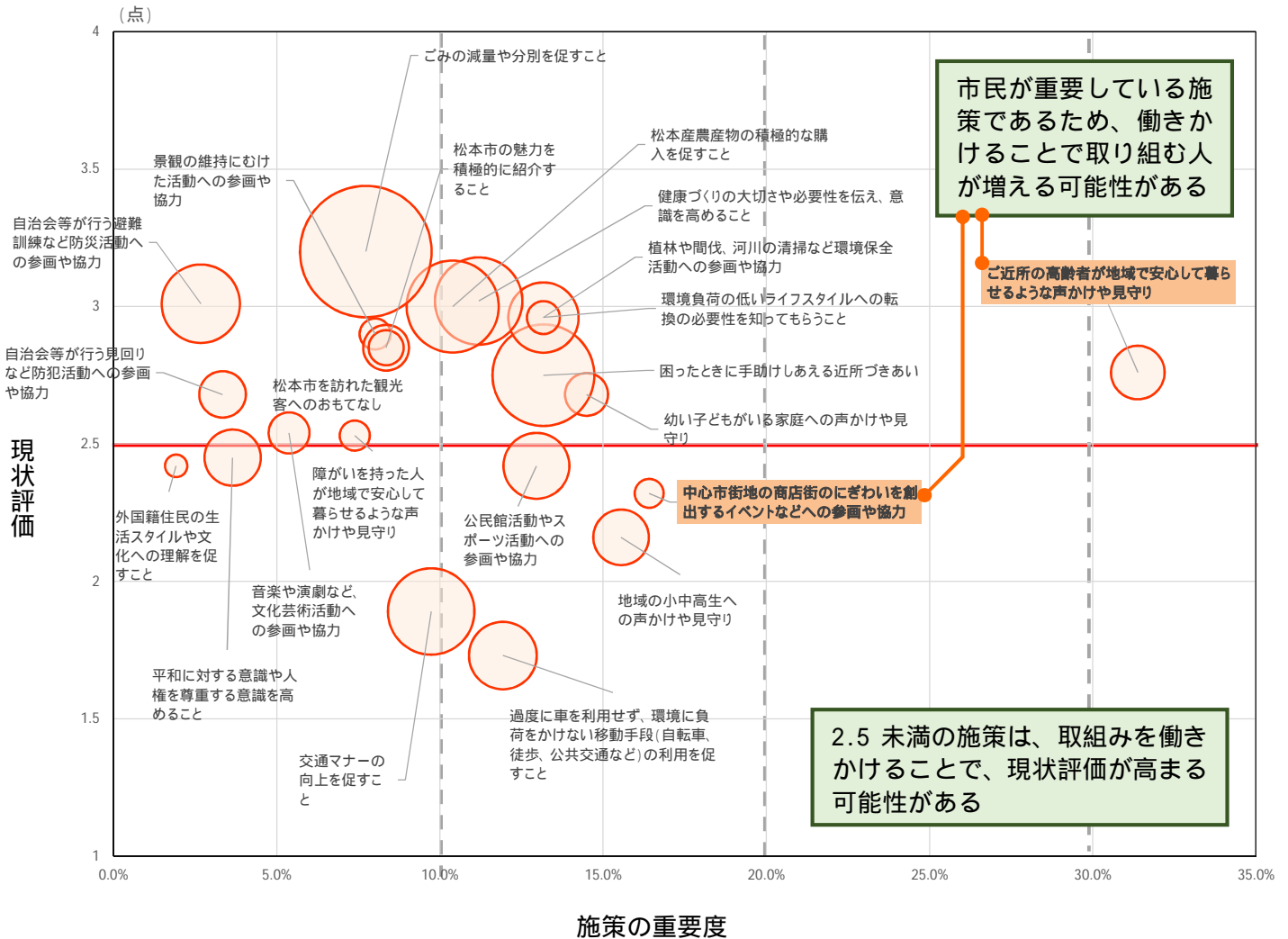
すでに満足しており、さらに良好な環境を求めている取組みや、行政ではなく地域が主体的に取り組むべき活動が含まれているといえる。この部分に関しては、現状の環境を保持していくこと、地域の主体性を尊重し、サポートにまわることが求められる。

市民の関わり方の関係性

下図は、横軸に施策の重要度を示し、縦軸に現状評価、市民が関与している状況を丸の大ききさで示したものである。市民が重視している「地域による高齢者福祉」や「中心市街地の活性化」は、他の施策と比較すると市民の関与度はまだ低いが、**市民は必要性を認識しているため取り組みの周知や働きかけにより行動につながる可能性が高い。**市の重要度及び現状評価が低い項目は、市民の関心が低く、働きかけても効果がでない可能性がある。行政が実施すべきか判断したうえで、市民に重要性を伝えていく必要があるといえる。

また、現状評価が低い施策は、市民の関与を働きかけることにより、現状評価が上がる可能性がある。

施策の重要度、現状評価、市民の関わり方の関係性



現在、取り組んでいる割合

- 25%
- 50%

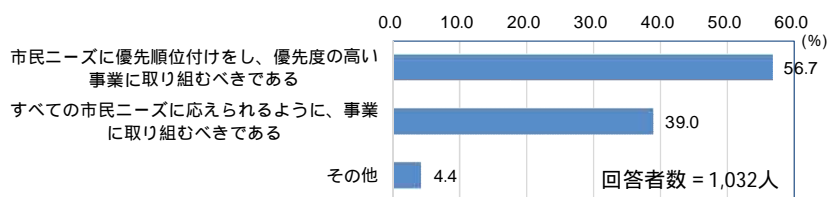
(4) 行政サービスに対する考え

今後の行政サービスの方向性については、「市民ニーズに優先順位付けをし、優先度の高い事業に取り組むべきである」と考える人が56.7%と最も多い。「すべての市民ニーズに応えられるように、事業に取り組むべきである」と考える人の割合は39.0%と一定数いる。

年代別にみると、10代と70代で「すべての市民ニーズに応えられるように、事業に取り組むべき」と考える人が多くとなっている。特にこの層に対して、厳しい財政状況により、行政サービスの縮小が予想されることを受け入れる市民意識の醸成が求められる。

今後の行政サービスの水準については、「行政の実施範囲を狭め、市民、自治会、民間などがその役割を担うことによってサービスの水準を保つ」が64.9%と最も高くなっている。この傾向はどの年代においても変わらない。

市民が考える今後の行政サービスの方向性

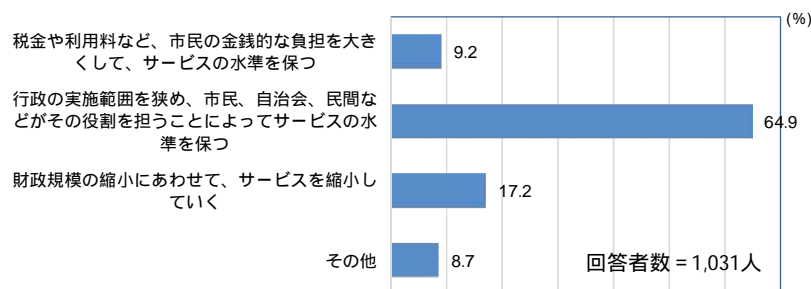


年代別みる市民が考える今後の行政サービスの方向性

年代	市民ニーズに優先順位付けをし、優先度の高い事業に取り組むべきである	すべての市民ニーズに応えられるように、事業に取り組むべきである	その他	回答者数
10代	47.6%	49.7%	2.8%	143
20代	56.3%	37.5%	6.3%	80
30代	69.8%	25.4%	4.8%	126
40代	61.6%	31.9%	6.5%	138
50代	60.1%	36.8%	3.1%	163
60代	56.0%	41.6%	2.4%	209
70代以上	47.9%	46.1%	6.1%	165
合計	56.6%	39.1%	4.3%	1,024

年代別の集計は、年齢が無回答の者を除き集計しているため、合計の数値は全体集計と一致しない。

市民が考える今後の行政サービスの水準



(5) 松本市の良いところ、改善ポイント、将来の目指すべき地域の姿

松本市の良いところ、改善ポイント、将来の目指すべき地域の姿に関する自由記述の集計を行った。

松本市の良いところ

- ・自然の豊かさ、気候の良さ、災害の少なさ等、松本の風土を良いところとする声が多い。自然に恵まれる一方、適度に生活環境が整っているという「都会過ぎず田舎過ぎない」ところを評価する人も多い。また松本城やセイジ・オザワ松本フェスティバル等に代表される歴史・文化も良いところとして挙げられている。

課題・改善ポイント

- ・分野ごとに課題があがっているが、特に渋滞や一方通行の多さ、公共交通の弱さ、交通マナーの悪さなど「交通面」や除雪対策に対して課題を感じている人は多い。

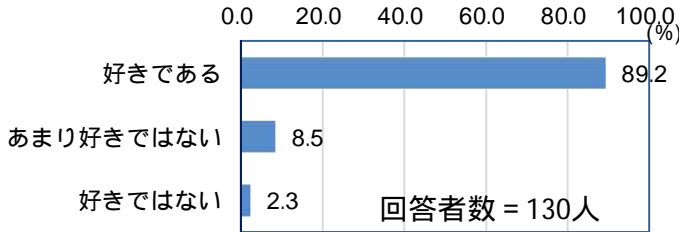
将来の目指すべき地域の姿

- ・子どもから高齢者まで誰にとっても住みやすい地域、観光客や移住者など多くの人を集める活気のある地域であることが望まれている。目指すべき姿として、都市としての発展を続けながらも、現状の良いところを大事に、都市と自然と文化の調和がとれたまちを求めている。

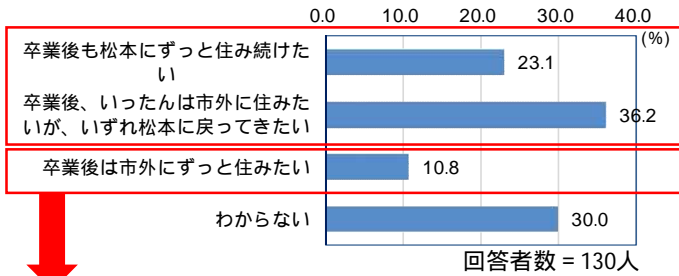
(6) 高校生の定住意識

- 89.2%の高校生が、松本を「好きである」としている。松本に愛着を持っている人が多いといえる。
- 定住意向に関しては、「松本にずっと住み続けたい」「いったん市外に住みたいが、いずれ松本に戻ってきたい」をあわせると59.3%となる。「卒業後は市外にずっと住みたい」人は、10.8%（13人）とわずかであった。
- 松本に住みたい理由としては、「実家で暮らしたい」「親しい友人がいる」「自然環境が豊か」の回答が多い。
- 松本市外に住みたい理由としては、「ほかに住みたい街がある」「都会的ではないから」が多い。

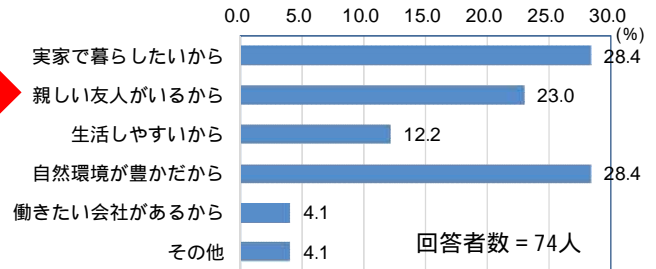
松本への愛着



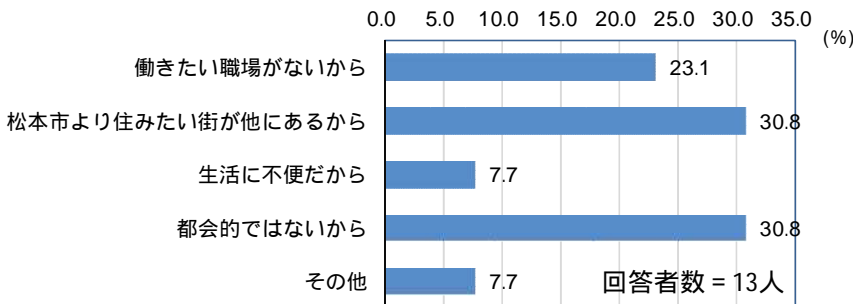
松本に住み続けたいか



松本市に住みたい理由



市外にずっと住みたい理由



(7) 他都市インターネット調査の概要

松本市の強み・弱みといえるのかを把握するために、インターネットにて、平成24年度から実施している「市民満足度調査」における施策評価と同じ項目で調査を行った。

なお、市民満足度調査結果とインターネット調査では、調査方法が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

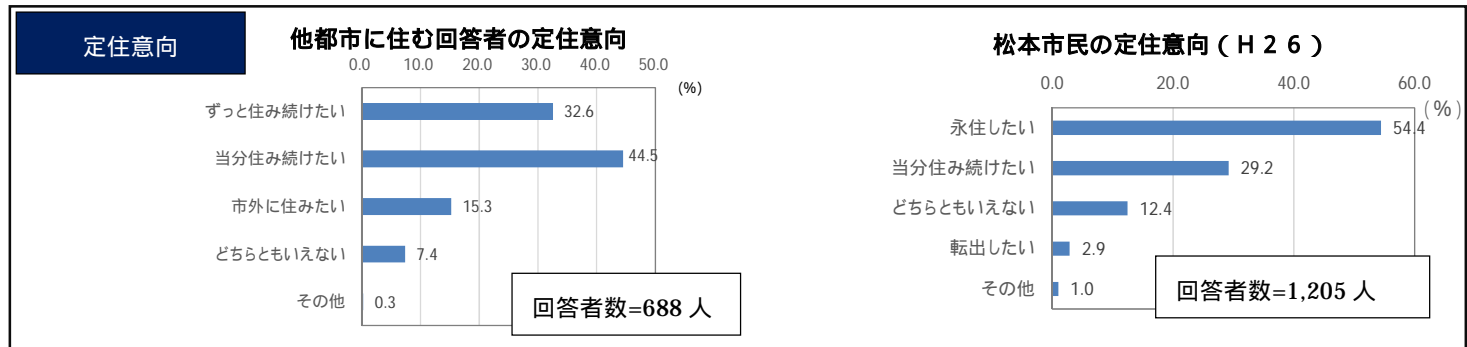
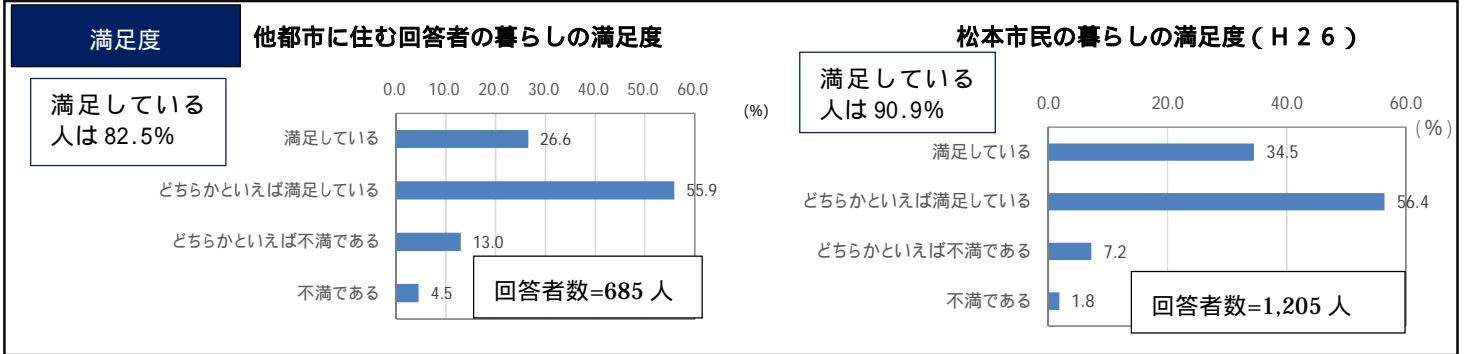
他都市調査の実施概要

- ・調査実施方法：インターネット調査
- ・回答者数：691人
- ・調査時期：平成26年9月1日～9月30日

・松本市は、他都市と比較して総じて施策評価が高い

今回、他都市とは76項目で施策評価の比較を行った。**松本市の評価がプラスだった項目は、67項目(88.2%)であった。**また、満足度、定住意向ともに、他都市と比較して非常に高くなっていた。**これらの結果を総合的にみると、松本市は他地域と比較して、市民が生活に満足しており、「暮らしやすい地域」といえる。**

総合的に評価が高いことが、人口動態の統計データに見られたように転入者数の超過、人口減少の抑制につながっている可能性もある。今後、さらに松本市の強みを伸ばし、弱みを克服していくことが求められる。



・幅広い分野で、他地域と比較して現状評価が高い

右表は、他都市と比較して、0.5以上評価が高い項目である。健康・医療分野、保育環境、地域防災、環境、観光や農産物など幅広い分野において高評価の項目がある。

他都市と平均点を比較して0.5点以上評価が高い項目

	松本市	他都市	他都市との差
1 健康について考え、実践できる環境がある	2.98	2.42	0.56
2 日常生活において、必要な医療を受けることができる	3.55	2.96	0.59
3 夜間、休日時に必要な医療を受けることができる	3.34	2.80	0.54
4 【障害者の同居者】障害者のための環境やサービスが充実している	2.56	2.00	0.56
5 【幼稚園・保育園の子どもを持つ親】安心して子どもを預けることができる保育園・幼稚園がある	3.23	2.71	0.52
6 地域による自主的な防災活動が行われている	3.02	2.47	0.55
7 悪臭や水、大気汚染などの問題がない地域である	3.26	2.69	0.57
8 行政が積極的に観光誘客に取り組んでいる	2.85	2.15	0.70
9 知人や友人にすすめたい地元産の農産物が多い	2.97	2.15	0.82
10 個性やこだわりのある店舗が増えている	2.71	2.01	0.70
11 知人や友人にすすめたい観光地が多い	3.14	2.05	1.09
12 地元産の農産物を積極的に購入している	3.03	2.48	0.55

・他地域と比較して、現状評価がマイナスだった施策は「ハード」が多い

右表は、他都市と比較して特に評価が低かった項目である(0.5以上評価が低い)。項目をみると、道路環境となっていた。松本市民が感じている課題が、妥当性があるものであるのかを検証しながら、改善を図っていくことが求められる。

他都市と平均点を比較して0.5点以上評価が低い項目

	松本市	他都市	他都市との差
1 生活道路を使った市内の移動がしやすい	2.42	2.94	-0.52
2 主要道路を使った市内外の移動がしやすい	2.41	2.99	-0.58